

学習目標

- 1、災害時の子どもと家族への看護の特徴がわかる

**災害を受けた子どもと家族への看護**

- 1、災害とは

「暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象または大規模な火事もしくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう」と定義（災害対策基本法 第2条より）されており、その原因は自然現象によるものだけでない。

- 2、災害の時間軸

\*この災害サイクルは、災害の種類や程度により異なるが、災害時にはそれぞれの時期に適切な医療や支援を提供することが重要となる。

- 3、災害時の子どもの身体に及ぼす影響

被災直後から超急性期にかけては、被害がおこった場所からの救出、応急処置、災害医療の要素である（ ）が重要とされる。

\*考えてみよう

子どもが置かれている環境と必要な支援とは？

- 4、災害による子どもの心理面への影響と看護

## 5、生活環境の変化による子どもへの影響

### 子どもの急性ストレス障害

分類	具体的な反応
身体反応	息苦しい、ため息をつく、手足が動かない、意識を失う、発熱、不眠、頭痛、腹痛、身体各部位の痛み、吐き気、めまい、頻尿、夜尿、吃音、感冒、アレルギー反応、食欲不振、過食、声が出ない、視野狭窄、疲れやすい、力が出ないなど
感情反応	過度の自責の念や罪悪感、無力感、不安、悲嘆、怒り、孤独感、絶望感、そのことに考えが捉われてしまう、自分の体をたたく、手に傷をつけるなどの自傷行為、他者とのあたたかみのある交流の喪失
行動反応	引きこもり、過度のおびえ、自傷行為、落ち着きがない、対人関係のトラブル、退行現象、わがまま、幼児語を使う、大人につきまとう、指しゃぶり、1人でいられない、暗いところを怖がる、年齢不相応な甘え方をする *思春期では、反抗したり、挑発してきたり、規則や約束をまもらない、ふざけた言動や派手な服装をして目立とうとする行動が見られる

## 6、特に支援を必要とする子どもと家族への看護

### 特に支援を必要とする子どもの特徴

## 7、被災した子どもを持つ家族への看護

## 8、まとめ

- ①子どもの生活環境を把握し、生活リズムを整え、子ども同士の安全な遊びの場や時間を確保するなど、( )ようにしてあげることが大切。
- ②可能であれば、季節に応じた取り組み（定例の行事、ラジオ体操など）を行い、遊び場、勉強場所の確保、子どもたちの日常生活を送る支援を考える。
- ③子どもに話しかけたり、抱きしめてあげたり、スキンシップをとって( )ように働きかける。また、( )ように環境を整える。
- ④子どもは遊びを通して( )ことが大切。絵を描いたり、ぬいぐるみで遊んだりできるように、遊びの場を確保する。
- ⑤( )ことも留意し、声をかけるなどによって、その把握に努める。
- ⑥脱水症状の兆候（唇の乾きやおしっこの回数の減少など）がないか注意し、こまめに水分摂取を促す。